

関大通信 第300号

平成14年(2002年)6月14日
大阪府吹田市山手町3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/

関大生 Fashion Navi

関大生は「おしゃれ」になった。むかしむかし関大生だった私は、そう思う。倶楽部のBOXが集まる「誠之館」に迷い込めば、襦袢(どてら)に下駄ばきといった出で立ちの男子学生とすれ違い、わか関大が、いしいひさいちさんの名作『バイトくん』の舞台であることを思ったものである。昨今は大学自体も「おしゃれ」になった。毎年のように風景が変わり、外観だけでなく、設備の整った使

い勝手の良い教室で講義や演習を行えるようになった。冷暖房が完備される教室には、ちょっぴり茶色くした髪を思い思いにカットした学生達が集う。ささくれだった椅子に座ったためにストッキングに伝線がいった、なんてこともないんだろうな。むかしむかし関大生だった私としては、ちょっぴりうらやましくもある。

men 男子

社会 経商 法文 工 総合情報

女子 women



各学部の分布は上の図のとおりである。関大生を全体的に見ると男女ともカジュアル路線の傾向が強かったように思う。また、女性は男性よりも服装に関して敏感であり、男性は自分のスタイルの傾向をある程度固定してしまっている人が多いのではないかと感じた。

今回取材のために関大生のファッション類型を4つに分類するのは、とても難しい作業だった。そして実際に取材をしてみても、それほど典型という人はいなかったのだ。

ファッションとは自己表現の一つである。そのファッションを変えてまで流行に乗るといふ人よりも、すでに出来上がっている自分のファッションに流行のアイテムを取り込むという人が目立った。これは現在「はずし系(※⑥)」が流行しているということもあるだろうが、関大生が型にはまりすぎた服装は好まず、自分で考えたファッションを好むからだと考えられる。ある程度、学部ごとに傾向がうかがえるのは、「郷に入るとは郷に従え」的な感覚が無意識のうちにできており、知らず知らずの間に、通う学部の主流傾向に合った格好をするからかもしれない。例えば、総合情報学部ではキャンパスが広く階段が多いせいなのか、女性でもパンツスタイルが多く見られるという傾向が顕著であった。靴もヒールはあまりおらず、お姉系であってもスニーカーやべたんこ靴(※⑦)が多かったように思う。

さらに、同じ分類の格好をしている人同士が集団化しやすい傾向がみられた。同じ服を着ているから集まるのか、それとも集団が同じだから格好も同じになるのか。真相はわからないが面白いと感じた。ただし社会学部は全く違う分類の人が集まっている集団が多く、こういった面

でも学部の特徴が浮き彫りになった気がする。

流行や各学部の傾向にはある程度合わせつつ、自分の個性や好みを出すのがおススメのスタイル。新入生もそうでない人も、毎日どんな格好をしていったらいいのだろうと悩んでいる方々は、ぜひこのレポートを参考にして楽しい大学生活を送っていただけたらと願っている。最後に、取材させていただいた方々、ご協力ありがとうございました。

これが関大生ファッションだ!



ファッション用語解説

①モード系…モノトーンを基調とした、タイトな服装。代表的ブランドはコムサデモード。

②スポーティ…トップスもしくは、ボトムスにナイロン素材を取り入れることが多い。動きやすいスタイルが基本。

③ダボ系…言葉通りダボダボした服装。ヒップホップのダンサーが好んで着るような服。

④お姉系…体のラインを強調した服。パステルカラーかモノトーンのコーディネートが多い。ボトムはタイトスカートが多く、ワンピースも好む。神戸に多いスタイル。

⑤流行系…2002年春からの流行はロマンチックボヘミアン。パンツの上にスカートを重ね着し、ストールやベルトなどの小物使いがポイントとなるスタイル。注目色は白。堀江・船場付近に多い。

⑥はずし系…全身を同じスタイルでかためるのではなく、違うテイストを入れること。例えば、きれいな格好にスニーカーを合わせるなど。

⑦べたんこ靴…ヒールがない、もしくは1〜3センチくらいの靴。代表的なのはバレエシューズやスリッポンなど。スニーカーは除く。

リポーター紹介

前列左から高田麻理子さん、大西恵子さん、杉本貴実子さん、後列左から坂東和也さん、浅井慎太郎さん、大井浩一郎さん(いずれも社会学部3年生)

今月の表紙



山野博史 さんまの・ひろし 教授 専攻は日本政治学、書誌学。思想史、文藝史にも関心が深い。著書に『発掘司馬遼太郎』、『本は異なもの味なもの』、『知的生活の流儀』(共著)ほか。



編集後記

たぶん「才能」とは、どれだけ自分を信じていることができるのかという、その力ではないか。特集に登場していただいたみなさんは、想像を絶する厳しい世界で活躍している方ばかりだが、そこでは、学生時代に平穏的な価値観を捨て、世間の流れから超越し、自分自身にのめり込む覚悟と時間が必要だったことだろう。先例を踏襲することで成長できた時代は去り、過去の経験的な知恵や常識も時には障害になるような時代に突入しているように思う。何か一つの能力を思いっきり伸ばすことで、社会に大きな貢献をする。五人のみなさんへ、そんな元気を示してくれた。多忙なスケジュールの合間、快く協力いただいたことに感謝します。(園田 恵)